

今年、農家となった 新規就農者たち

研修生を経て、今年農家デビューを果たした2人。アサヒメロン農家になった経緯や、これからの思いなどを伺った。



アサヒメロン農家になった理由

黒木さんは横浜から安平に来られたんですね。農業に興味を持ったきっかけは。

黒木 横浜にいたとき、妻が両親の影響で畑を借りて、家庭菜園をやっていたんです。これを仕事できたら良いねと妻が話していて、それがきっかけで僕も農業に興味を持つようになりました。

小松さんは釧路町で消防士をされていたんですね。以前から農業に興味があったのでしょうか。

小松 はい、やってみたいと思っていました。自然の中でゆったり過ごしたいと考えるようになり、それなら農家になるのが自然な流れだなと。せっかく公務員になったのに：と両親は当初大反対で（笑）。今は収穫の手伝いに来てくれるようになりました。

農業をしたいという思いから、黒木さんが実際に安平町に来る決断をした経緯は。

黒木 農業フェアで（のちの師匠である）高橋さんと出会ったことから始まります。ピンポイントに声をかけられました（笑）。話を聞き、高橋さんの性格と僕たち夫婦の性が合い、この方に農業を教わりたい、そして就農したい：という思いが徐々に強くなり、安平に来ることを決めました。

小松さんがアサヒメロンの栽培をしようと思われた理由は何ですか。

小松 消防を退職後、大根農家で働きながら就農先を探していたんです。そこで見つけたのが安平町が行っていた新規就農者向けの研修制度。制度が充実していたのと、アサヒメロンは作物の単価が高く、1つ1つ大事に育てていくというところに魅力を感じました。

環境の変化

生活環境や仕事内容が変わり、いろんな変化があったと思います。黒木さんは本州からの移住だと苦労が多かったのでは。

黒木 北海道に住んだことはないし、知り合いもない：わからないことだらけで、大変でしたね。近所に何人か農家さんがいたので、いろいろと教えてもらい、助かりました。安平にやってきたその日に、生まれて初めて車で雪道を走りましたよ（笑）。

小松さんは道内からの移住ですが、環境の変化や前職との違いはありましたか。

小松 同じ道内なので、環境の変化はそれほどありませんでした。安平は釧路よりあたたかく、気候面では良いことばかりです。アサヒメロンはビニールハウスで育てるので、畑で作る大根と工程や作業内容は全然違いました。



黒木正輝（まさてる）さん
横浜より移住。
47歳。
元プログラマー。



黒木正輝（まさてる）さん
横浜より移住。
47歳。
元プログラマー。

研修生から農家へ

研修時の技術指導者はそれぞれ違う方ですが、どんなことが印象に残っていますか。

小松 多くは林出勇一さんに教えてもらいました。目で追えないぐらいの作業スピードで、熟練した技術という感じ。身体に染みついてるんですね。

黒木 指導をしていただいた高橋さん自身が新規就農者として本州から来た方なんです。そういうことを教えてほしいか理解されていて、ポイントをしっかりと教えてもらいました。

まだ農家になったばかりではありませんが、これからどんなアサヒメロン農家になっていきたいですか。

小松 就農時に立てた、5年でハウスを9本を作るという計画に向かってまずは頑張ります。15年後には借金ゼロ農家になりたい（笑）。今後も品質のいいアサヒメロンをたくさん収穫していきたいですね。

黒木 ハウスは5年で8本作る予定にしています。安定して厳しい基準をクリアしたアサヒメロンが収穫できるよう、これからもより良いものを作っていきたいですね。